知る ■御師 旧外川家住宅の耐震補強について

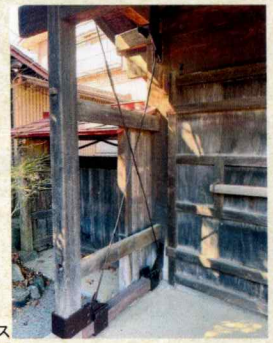
御師 旧外川家住宅は、平成18年度に保存修理工事を実施しましたが、近年、南側の柱に傾きが確認されたことから、建物の安全性を把握するため、耐震診断を行いました。その結果、耐震補強が必要であることが明らかとなりました。耐震補強工事にあたっては、主屋および離座敷が、宿泊・居住・祭祀といった御師住宅としての機能を段階的に発展させてきた過程を良好に示し、江戸時代後期に隆盛を迎えた御師住宅の典型として高い価値を有する点を踏まえ、建物内部の意匠および構造に極力影響を与えない工法を選定しました。耐震補強工事は令和6年度から7年度にかけて実施し、主屋および離座敷の建物外周に鉄骨フレーム、ブレースを設置するとともに、鉄骨フレームの基礎下部には地盤改良を施すことで、敷地全体としての耐震性の強化を図りました。また、中門および物置については、新たに耐力壁や補強材を追加し、安全性の向上を図りました。

これらの耐震補強工事により、御師 旧外川家住宅の信仰・生活空間を損なうことなく価値を維持し、来訪される皆様がより安心して見学できる環境を整備することができました。

主屋 北側鉄骨フレーム

主屋 南側鉄骨フレーム

物置天井ブレース



中門ブレース

ACCESS INFORMATION

ふじさんミュージアム 附属施設 御師旧外川家住宅

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田3丁目14-8 TEL 0555-22-1101

開館時間■午前9:30～午後5:00（午後4:30迄入館可）

休 館 日■火曜日（祝日を除く）、年末年始

観 覧 料■御師旧外川家住宅

大人100円（団体80円） 小中高生50円（団体40円）

■ふじさんミュージアム・富士山レーダードーム館との共通入館券

大人800円（団体600円） 小中高生450円（団体350円）

◎20名以上は団体料金となります。

交通案内■中央自動車道河口湖ICから車で5分

東富士五湖道路富士吉田忍野スマートICから車で10分

富士急行線富士山駅から徒歩10分

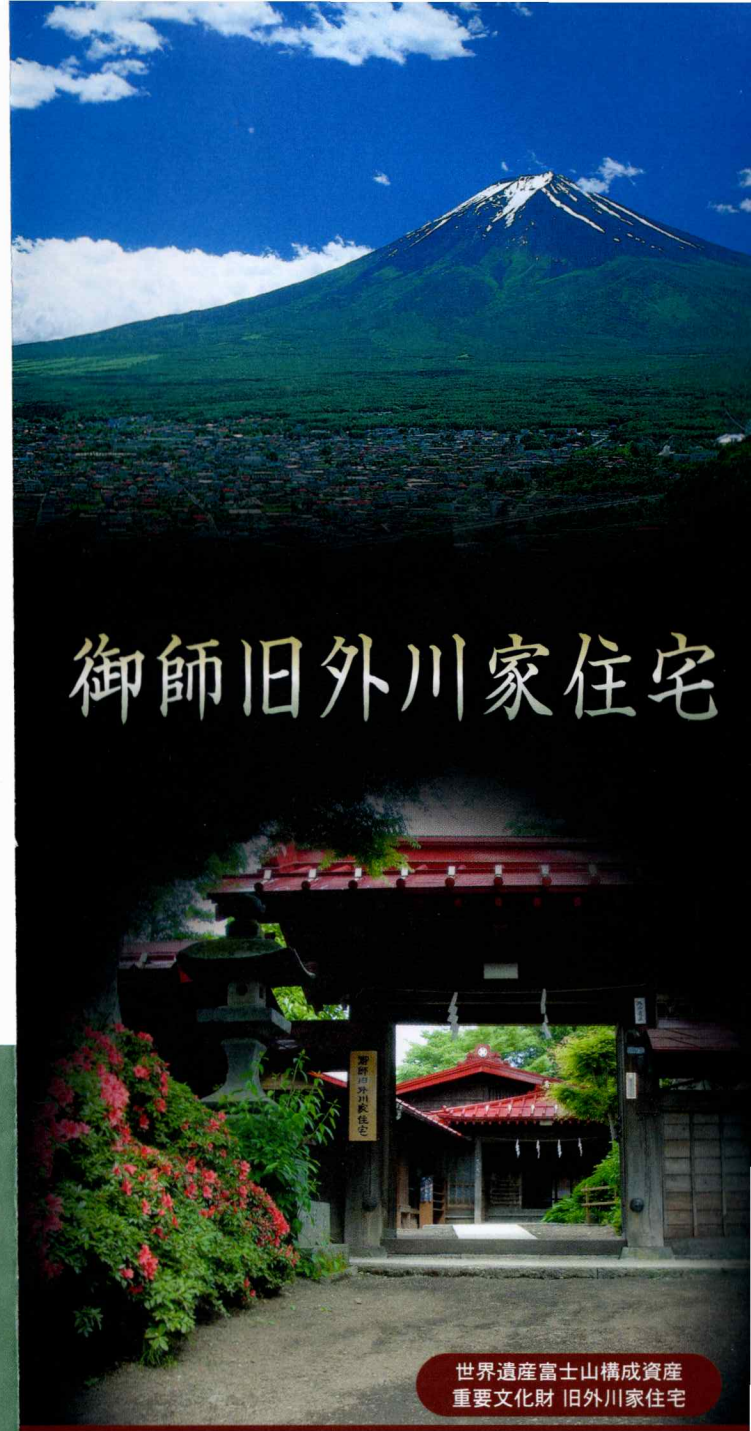
または、山中湖方面バス3分「北陵高校前」下車

ふじさんミュージアム

〒403-0032 山梨県富士吉田市上吉田東7-27-1

TEL 0555-24-2411 FAX 0555-24-4665 URL https://www.fy-museum.jp/

ふじさんミュージアム（富士吉田市歴史民俗博物館）は、「富士山の魅力を余すことなく伝えられる博物館」をコンセプトに「見て、体験して、利用する」施設として、最新の映像技術を取り入れたミュージアムです。平成25年6月に富士山は世界文化遺産に登録されましたが、当館では世界遺産富士山を知ることができる随一の博物館として多くの富士山に関わる貴重な資料を展示しております。「富士山について誰もが気軽に楽しく学べる開かれた博物館」として、皆様を「おもてなし」させていただきます。



御師旧外川家住宅

世界遺産富士山構成資産
重要文化財 旧外川家住宅

ふじさんミュージアム附属施設

神仏の住まう山―

富士山の歴史と信仰

富士山は、その山容の美しさから日本一の山、名山とたたえられてきました。しかし一方では、古来より噴火の猛威をふるう火山として人々に畏敬の念をもって崇められ、山頂には神仏が住む霊山として、山岳信仰の対象とされてきました。そのため、繰り返す噴火を鎮めるために浅間大神を祀ったのが浅間信仰の始まりとされています。

富士信仰の当初の形態は、麓から山体を仰ぐ、遙拝信仰でありました。平安時代以降は、仏教の影響により修行のため山内に分け入る修験者が増え、遙拝する山から修行の山へと変化していきました。中世になると修行者以外にも富士山を信仰して登山をする一般の人々(道者)が増えています。『勝山記』(妙法寺記)明応9年(1500)の条に「富士へ道者参ること限りなし・・・」と富士登山の盛況ぶりが記されています。こうして富士山は、時代とともに修験者による修行の山から信仰による一般の参詣登山というかたちに移行していきました。

富士山の信仰が一般的に受け入れられたのは、室町時代末期に長谷川(藤原)角行が、富士信仰を独自の教えをもって説いたからとされます。その後の弟子たちによって受け継がれ、六世の食行身禄や村上光清らの行者の活躍により、江戸時代後半、富士講として隆盛を極めました。

庚申年富士山参詣群集之図

御師「旧外川家住宅」

外川家は、奥行き八十間ほどの長大な短冊形地割の屋敷地に建てられ、主屋と離座敷の2棟から構成されています。御師住宅の特徴ともいえる奥行きのある細長い形状の屋敷です。

中門をくぐると、「ヤーナ川(間の川)」と呼ばれている川(水路)が流れています。ここには、小さな滝が造られ、宿泊する富士講が、到着や出発の際に水垢離を行う禊場となっていました。離座敷後ろの敷地は、竹藪・屋敷林が広がり、屋敷神(稲荷社)や屋敷墓があります。

知る

■富士山御師

富士山に登拝する人々を富士道者といいます。関東からの道者は甲州道中を辿り、大月宿から富士山北面の吉田口へと到着します。そして御師の宿に宿泊し、翌日に浅間神社へ参拝し山内へ踏み出しました。

吉田の御師は、富士山そのものを神体として信仰するため「富士山御師」などとも呼ばれ、特定の社寺ではなく富士山へ信仰登山する人々(道者)に自らの住宅を宿坊として提供し、登山の世話をおこなっていました。このように「御師」とは、単に参詣者の案内や宿泊などの世話をするだけではなく、祈祷によって寺院や神社に参詣する人々と神仏の仲立ちをする宗教者でした。

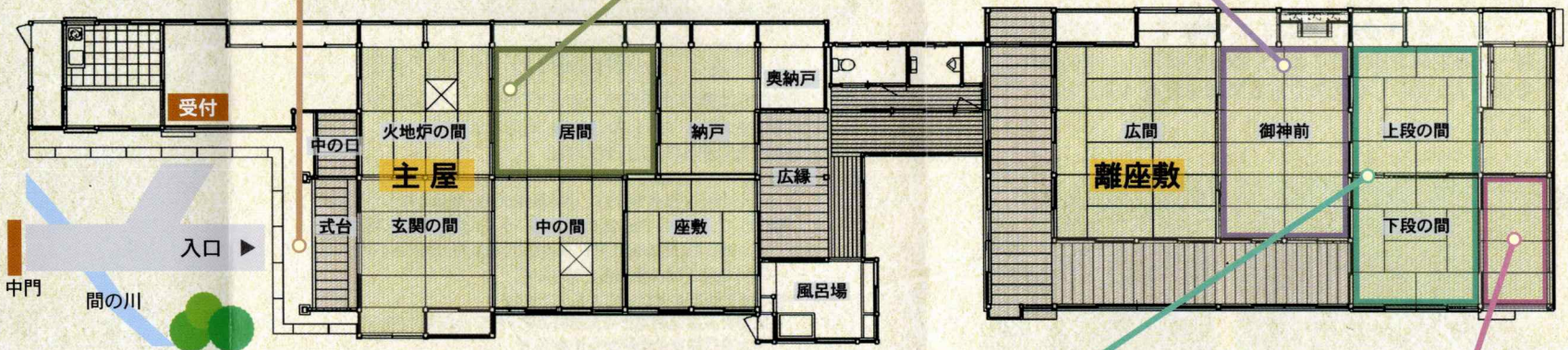
家名額

入口から見た 式台玄関～座敷

居間

御神前

間取り図



主屋

主屋は、18世紀後半の明和5年(1768)に建造されました。上吉田に現存する御師住宅の多くは、19世紀以降の建築と推測され、この時期まで遡るものは少なく、きわめて貴重な建造物といえます。

離座敷

主屋の奥には、廊下を介して離座敷が建てられています。屋根形式は切妻造・板葺(現・鉄板葺)で、規模は梁間四間半×桁行六間と主屋よりも大きい造りとなっています。この離座敷は、主屋建立から約90年後の万延元年(1860)頃に増築されて、改築や修理を繰り返して現在に至っています。

上段の間/釘隠し

下段の間と上段の間

最も格の高い客室で、床が一段上がった造りになっています。北面に床の間があり、畳み敷きの広縁に張り出した付書院があります。四方に廻された長押には、丸鉄講社の講印を表した釘隠しがあしらわれ、この建物の改修に際して東京浅草の富士講社が、尽力したことをうかがえます。

御師や行者の衣装を展示

知る

■御師の職分

富士山を信仰する人々にとって、病気の苦しみから救ってくれるのは富士の神霊であり、その仲立ちをする御師の祈祷によって功徳があらわれると信じられていました。そのため御師は、檀家の希望やその時々の状況に応じて、祈祷、祓い、占いなどをおこない、富士山宝印・富士山牛玉といったお札を摺って檀家に配っていました。